

2015年9月24日

報道関係各位

慶應義塾大学 SFC 研究所

## 慶應義塾大学 井庭崇研究室が

認知症フレンドリージャパン・イニシアチブとともに制作・出版した  
『旅のことば：認知症とともによりよく生きるためのヒント』が  
オレンジアクト認知症フレンドリーアワード 2015 大賞を受賞！

慶應義塾大学総合政策学部 井庭崇准教授および井庭崇研究室が、認知症フレンドリージャパン・イニシアチブとともに制作・出版した書籍『旅のことば：認知症とともによりよく生きるためのヒント』（丸善出版、2015年5月）が、オレンジアクト認知症フレンドリーアワード 2015（主催：NPO 法人オレンジアクト）において、**大賞**を受賞しました。

この書籍は、認知症と診断された後もいきいきと暮らしている方の生活の秘訣を、他の方々が自分の生活に取り入れられるようにつくられたものです。全部で40個の「ことば」（秘訣）があり、「認知症の本人」「家族」「周りの人」と3つの立場に分けて書かれています。認知症とともによりよく生きるには、誰か一人が頑張るのではなく、関わるみんなでよりよくしていかなければなりません。「旅のことば」は皆がそれぞれの立場で少しずつ「ことば」（秘訣）の真意を理解し実践することで、変化が連鎖し、全体がよい方向へ向かってくようにつくられています。

パターン・ランゲージ「旅のことば」は、よい工夫や考え方を言語化し、他者と共有する手法としてパターン・ランゲージの研究を進める井庭崇研究室と、認知症という課題に対して企業・自治体・NPOなどのセクターを超えて活動を進める認知症フレンドリージャパン・イニシアチブ（DFJI）に参加する岡田誠さんら、株式会社富士通研究所、コクヨ S&T 株式会社、大日本印刷株式会社、NPO 法人認知症フレンドシップクラブ、国際大学グローバル・コミュニケーション・センター（GLOCOM）の方々との共同研究にて生まれました。書籍とともに、同内容の「旅のことばカード」も制作し、ワークショップなどを通じてより多くの方の生活に役立つよう活動をしています。

## □受賞作品

『旅のことば：認知症とともによりよく生きるためのヒント』

（井庭崇、岡田誠 編著、慶應義塾大学井庭崇研究室、認知症フレンドリージャパン・イニシアチブ 著、丸善出版、2015年5月）

[http://pub.maruzen.co.jp/book\\_magazine/news\\_event/2015/108927.html](http://pub.maruzen.co.jp/book_magazine/news_event/2015/108927.html)

## □オレンジアクト「認知症フレンドリーアワード」

<https://orangeact.org/award.html>

認知症に備えることの大切さを啓発するNPO法人オレンジアクト（住所：東京都大田区、理事長：高瀬義昌）が、認知症フレンドリー（認知症にやさしい社会）の普及啓発を目的として開催する取り組み。今年1年行われた認知症フレンドリーを普及するための取り組みやサービス、研究などをオレンジアクトが社員、賛助会員、登録ボランティアスタッフなどの声に基づき、投票・集計し表彰します。

## □選考理由

認知症はともすれば、その専門職ばかりが対応するような病気としてとらえられます

が、この書籍の開発には医師はかかわっておらず、パターン・ランゲージを学ぶ学生などが手を取り合って作成したものです。誰もが自分でできることで認知症フレンドリーができることを体現したものであり、また、書籍のパターンを活用することで、認知症になったとしてもよりよく生きることを本人、家族、またそれを取り巻く一般の方と考えていくことができるものです。この書籍などのガイドにより認知症をみんなの関心ごととして考えていただくことが広まることを願っています。

#### □受賞者のコメント

“このような名誉ある賞を頂きまして誠にありがとうございます。DFJI という組織・団体は、認知症フレンドリーな社会づくり、街づくりに対して普通の社会人、僕のようなサラリーマン、金子くんのような学生がいろんなセクターを超えて何かできないだろうかということで集まった団体です。

本書はこういうところから出てきた1つのプロジェクトの成果でもあるのですが、何よりも認知症フレンドリーに1番理解ある、プロでもありますオレンジアクトさんや高瀬先生のような認知症のプロのお医者様、また認知症に携わっているボランティアの方々から評価されてこのような大賞を頂いたというのは本当に名誉あることだと思っております。これを励みに、今後とも認知症フレンドリーな社会・街づくりを色々な面から進めていきたいと思っています。”(DFJI に参加する コクヨ S&T 田中克明 氏)

“この度は名誉な賞をありがとうございます。先ほど紹介があったように自分たちは福祉とか医療を専門として学んでいるわけではなく、パターン・ランゲージという方法論を研究している学生です。今後認知症フレンドリーな社会において専門家ではない学生が関わっていくということがどんどん増えてくると思います。実際に、「旅のことは」も表紙のデザインから紙の1枚1枚の色、厚さ、フォント、中のイラスト等、全部学生や井庭准教授が手作りで作り、出版という形になりました。今後、これを元に何かが変わっていけばいいなと本当に思っているのですが、実際これを読んだからといって認知症の人が治ったりはしないのですね。認知症が良くなるはならないのですけれど、これが認知症フレンドリーな(社会づくりの)きっかけになると僕は思っています。”(慶應義塾大学環境情報学部2年 金子智紀)

#### □その他

書籍版「旅のことは」と同内容で、ワークショップ等での対話によって「認知症とともによりよく生きる」理解を深めることを目的として開発された「旅のことはカード」は、株式会社 クリエイティブシフトが制作し、amazon.co.jp にて販売されています。詳しくは、<http://tabinokotoba.sfc.keio.ac.jp/> をご覧ください。

\*ご取材の際には、事前に下記までご一報くださいますようお願い申し上げます。

\*本リリースは新聞各紙社会部、web ニュース等に送信させていただいております。

---

このプレスリリースに関するお問い合わせ先  
慶應義塾大学 井庭崇研究室 「旅のことは」プロジェクト  
E-mail: [tabinokotoba@sfc.keio.ac.jp](mailto:tabinokotoba@sfc.keio.ac.jp)

慶應義塾大学湘南事務室学術研究支援担当 河越  
〒252-0882 神奈川県藤沢市遠藤 5322  
TEL: 0466-49-3436 / FAX: 0466-49-3594 / E-mail: [kri-pr@sfc.keio.ac.jp](mailto:kri-pr@sfc.keio.ac.jp)